優れた、より良い福祉コミュニティーをめざして

まほろば 社協広報

ふれあいネットワーク

【特集】まほろばセミナーの開講について

第10号

みんなで遊びリテーション／まほろば運動会

ホームヘルプ・デイサービス利用者に、ボランティアさんも参加して、楽しいリハビリを兼ねた秋の運動会が開催された。

写真／まほろば運動会の競技風景から(9/28於トレセン体育館)

特集　まほろばセミナーの開講について
［健康と福祉］体験学習の場と機会に

山形村社会福祉協議会では、地域の皆さんが、健康や福祉等について気軽に体験学習できるよう、その場と機会を提供する企画として、「まほろばセミナー」を開講することとした。

従来、健康や福祉に関する各種の研修会は、個々別々に企画・実施してきたが、今後は、年次計画等に基づき、種目別に再編成をし、シリーズ化を試みる等して、参加しやすく、より魅力のある講座（体験学習会）として開講をして行こうというもの。本年９月より、年度事業に併設させ、市町村社協活動支援事業（関連記事／P6）の試行的取り組みとして、同セミナーを開始した。

まほろばセミナー
東筑ボランティア交流会の開催

去る９月２日、村トレーニングセンター及びふれあいの館を会場に、東筑摩郡ボランティア交流会を開催した。第４回目の開催となるこの交流会、本年は、山形村社協が開催当番となったことから、「まほろばセミナー」の一環として企画し、東筑の各町村社協の協力を得て実施した。

当日は、５つの講座を開講し、郡内各町村から集まった250人程の参加者それぞれが、各種の体験学習に励むこととなった。

講座①／講義「地域の中で子どもは育つ」
―子どもとボランティア活動―

松本市中央図書館長の手塚英男さんから、子どもの遊びと文化についてのお話しがあり、自然とのふれあい、人との交流の中での感動体験が、子どもたちの成長にとって必要。子どもたちが豊かな文化体験をすることのできる環境を、地域の中に築いて行くことが大切である等、児童福祉について貴重な指導をいただいた。

講座②／ふれあい観劇「パペットシアター」

人形劇団「てぶくろ」による人形劇を鑑賞した。同劇団は、村でボランティア活動をする家庭の主婦等の集まり。ふれあいの館を活動拠点に、週１回の練習を重ねてきた成果を披露。

当日は、『ヘビと森の仲間たち』・『お誕生日のカレーライス』の２本を上演。参加者よりたいへん好評であった。

◇もくじ／社協広報第10号◇

［特集］まほろばセミナーの開講について（東筑ボランティア交流会・健康教室）……２・３
［歳時記まほろば］自然タッチング（清水高原編）の開催 他……４・５
［報告］市町村社協活動支援事業の指定／平成７年度共同募金の実施結果 他……６
平成７年第２回社協理事会・評議員会議事報告／［インフォメーション］……７
［寄稿］唐木敏文（ピアやまがた・生活指導員）／［編集後記］……８

講座③／講話及び実技「子どもの体験学習とその重要性」／「ネイチャーゲーム」

自然観察インストラクターの宮下茂さんより自然体験学習の心構え、リーダー養成の必要性、体験学習指導のコツ等のお話しがあり、その後木の学習を兼ねた丸太切り・ペンダントづくり、季節の花・秋の七草を視覚で学習する等、ネイチャーゲームの指導をいただいた。

講座⑤／演習「あなたにもできる手話」

内川英美さん他波田町手話サークルの皆さんより、手話をはじめるに当たっての心構え等の指導をいただき、その後生活上の身近かな事柄を題材に、手話を使って言葉を交わしてみた。

参加者のほとんどがはじめての経験であったこともあり、新しい言葉の世界の発見に、みんな目を輝かせていた。

講座④／レクリエーション実技「遊びリテーション」

村社協レクリエーションスタッフがリーダーとなり、④講座参加者全員で「遊びリテーション」の体験学習をした。種目はベンチ卓球・ふわらふわらゲーム・バックボックスボール・ベンチホッケー（サッカー）等、めあたらしい体験に抱腹絶倒することとなった。

◇遊びリテーションとは◇

■「遊びリテーション」とは、「遊びやゲームなどを取り入れたリハビリテーション」という意味の新しい言葉であり、遊びとリハビリテーションの一体化をめざすものである。

■「遊び・ゲーム」や「グループ・レクリェーション」は、これまで老人のレクリェーションとしておこなわれてきたが、最近では、老人の機能訓練に対する動機づけとしてきわめて有効であるだけでなく、障害と老化に見合った生活再建のためのケアプランに役立つものとして、老人ケアの分野で大きな注目を集めつつある。

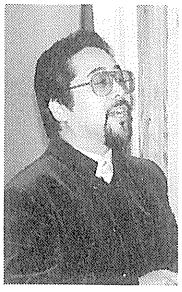
まほろばセミナー 高齢者健康教室（平成7年度第1期）の開催

去る10月21日及び11月18日、ふれあいの館において、主に村の高齢者を対象にした好例の健康教室を開催した。（本年からこれも「まほろばセミナー」として企画・実施することとした。）

◆10／21講座◆

［目で見るガンのお話し］

山村医院・山村光久院長より、さまざまな胃癌の形や、潰瘍、ポリープの写真による説明。胃カメラを使った最新の癌の治療法。その他癌の症例から、CTや、いろいろな検査法の紹介をいただいた。



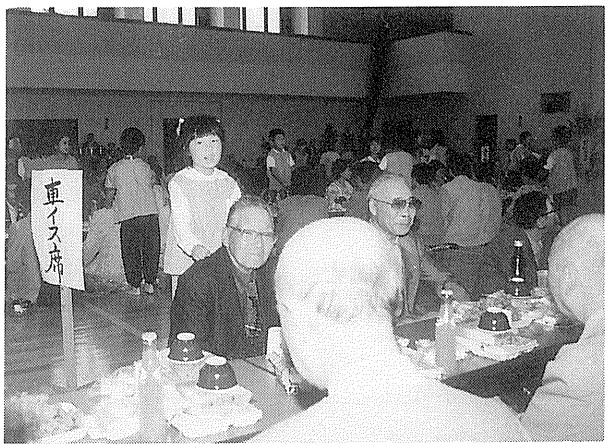
◆11／18講座◆

［泌尿器科の病気あれこれ］

信大付属病院泌尿器科・西沢尊子看護婦長より、尿失禁とその対策について、具体的な事例から治療法・手術後のリハビリの説明。症状があらわれてからの対応についての指導をいただいた。

歳時記／まほろば

◇Ｈ７．９／14　於／トレセン体育館◇



▲保育園児による「肩たたき」プレゼント

敬老会の開催

村の恒例の行事、敬老会は、本年も大勢の村内高齢者が招待され、開催された。

当日、村の高齢者の状況報告につづいて、県と村からの祝い品の贈呈が行われた。

来賓より祝辞が贈られた後、保育園児によるお祝いの歌と心のこもった「肩たたき」のプレゼントがあり、参席いただいたお年寄りの皆さんも、おもわず目を細めていた。

◇Ｈ７．９／21・26，10／３　於／松本・塩尻方面◇

秋のバスハイキング

デイサービスセンター「ふれあい」では、好例となった「ぶどう狩り」に、本年は、空港見学をメニューに加えて、秋のバスハイキングを行った。（３回実施）

塩尻のぶどう園にて、美味しいぶどうをいっぱい摘んだ後、松本空港へ。空港内の諸施設及び飛行機の離着陸を見学した。つづいて、スカイパークにてお弁当等々。盛り沢山のメニューに、参加者も大いに満喫していた。

▲ぶどう狩り＆空港見学をセットで企画

◇Ｈ７．10／７　於／トレセン体育館◇

▲箱になかなか入らないビーチボール

＝ 新規種目を加えて ＝

老人スポーツ大会の開催

本年は、村内からお年寄り230余名が参加し、例年にも増して熱気あふれるスポーツの大会となった。

本年で第18回を迎えるこのスポーツ大会、多くのベテラン選手を輩出することとなったが、本年は、幾つかの新規種目も加えられ、ベテラン選手・新人選手の別なく、一様に苦戦を強いられる場面もあった。競技終了後は、皆、心身共にリフレッシュされた様子であった。

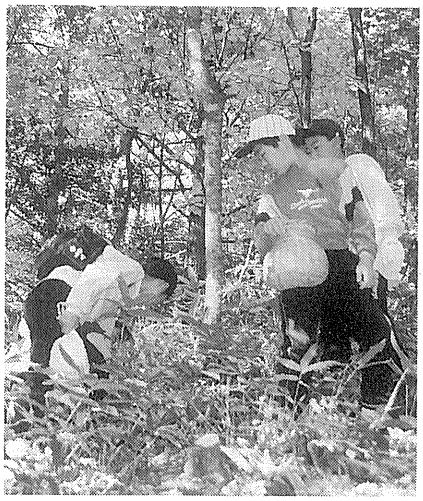
◇H７．10／14　於／清水高原◇

自然タッチング／清水高原編の開催

村公民館と社会福祉協議会の共催で、春につづき本年２回目の自然タッチングが開かれた。当日は、わんぱく探検隊（ふれあい児童館レインボークラブ）の子どもたちをはじめ、村内の一般親子連れ約100名が参加。班ごとに分かれ、それぞれ自然観察インストラクター等の指導のもと、秋の高原をキャンパスに、キノコ採取の体験学習が展開された。

採取したキノコは、きめ細かく調査・取捨選択され、合格品はさっそくキノコうどんの鍋へ。参加者全員でその味覚を味わった。天候にもめぐまれ、自然と大いにふれあうことができ、「タッチング」の企画名称にふさわしい成果が得られた。

▼採取キノコで論功行賞



▲秋の清水高原一帯を散策

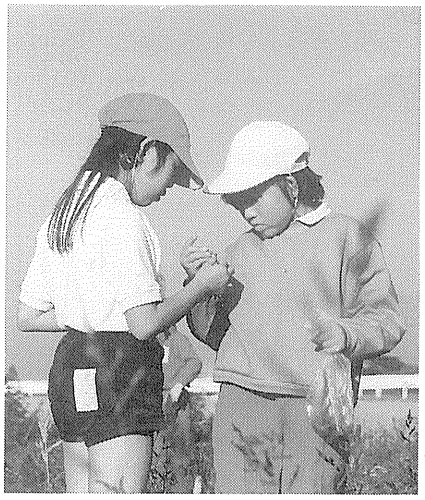
▲キノコの青空教室も開講

◇２年目を迎えて／ちびっこ楽舎◇

昨年設置された、ちびっこ楽舎（放課後児童対策事業／児童クラブ）も２年目を迎えた。本年７月からは、村社会福祉協議会の受託事業として、児童館に併設し運営されることとなった。昼間保護者のいない家庭等にある児童の育成・指導を目的に行ってきたこの児童クラブ事業、現在約50名の児童が登録されるに至り、放課後を大いに利用して、ころがしドッヂ・一輪車・卓球・折り紙・ドミノ・ネイチャーゲーム等々、その活動もいよいよ活発なものとなってきている。

（この放課後児童対策事業の利用についての問い合わせ／村社協事務局／☎98－3081まで。）

▼最近の一番人気は卓球遊び



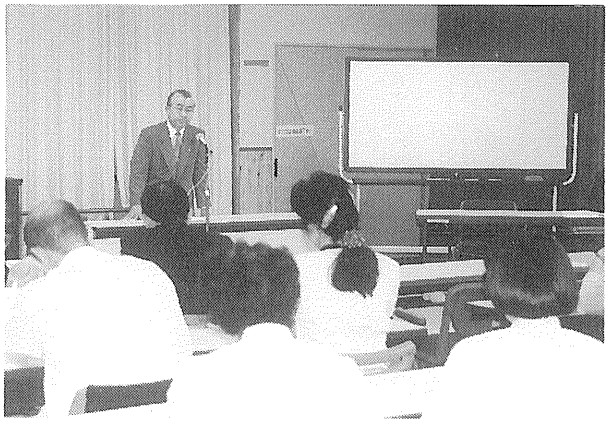
▲トレセン周辺でイナゴ捕り

▲親子でお楽しみ会も企画

社協総務・組織関係報告①

◇市町村社協活動支援事業の指定◇

本年７月、県社協会長より、山形村社協が、標記支援事業の指定を受けたことから、役職員研修会の開催（９／25)、まほろばセミナーの試行的実践、村住民福祉課と連携して高齢者世帯・独居老人・障害老人の聞き取り調査等をはじめている。また、今後は企画調査委員会を設置して、在宅福祉サービスの開発検討等を実施して行く予定である。



▲金子課長（県社協）の講演／役職員研修会から

▲東筑摩郡社会福祉大会の表彰式から

◇東筑摩郡社会福祉大会にて被表彰◇

去る11月２日、松本合同庁舎・講堂において、平成７年度の東筑摩郡社会福祉大会が開かれた。この席で、東筑社会福祉協議会長より、福祉関係者等への表彰が行われ、山形村からも、老人介護善行者として中村裕子さん（上大池区)、母子寡婦福祉事業功労者として前田愛子さん（下大池区)、地域社会奉仕活動事業功労団体として民話クラブ「灯」が、それぞれ表彰状を授与された。

◇共同募金・山形村分会報告／社協への寄附金紹介◇

―― あたたかな善意、ありがとうございました。――

◇平成７年度赤い羽根・歳末たすけあい共同募金の実施結果◇

平成７年度の赤い羽根・歳末たすけあい共同募金運動を、去る10月１日から実施したところ、次のような実績となった。この募金は、全額を長野県共同募金会へ送金することとし、その一部が平成８年度において、配分金として村社協へ交付される。

募金総額　1,815,685円　（但し、平成７年11月20日現在の実績）

（募金内訳／単位：円）

上大池	中大池	小　坂	下大池	上竹田	下竹田	小学校	職域他
213,000	172,000	365,000	128,000	402,000	476,000	35,268	24,417

◇社協への寄附金の紹介（敬称略）―― 平成７年９月以降 ◇

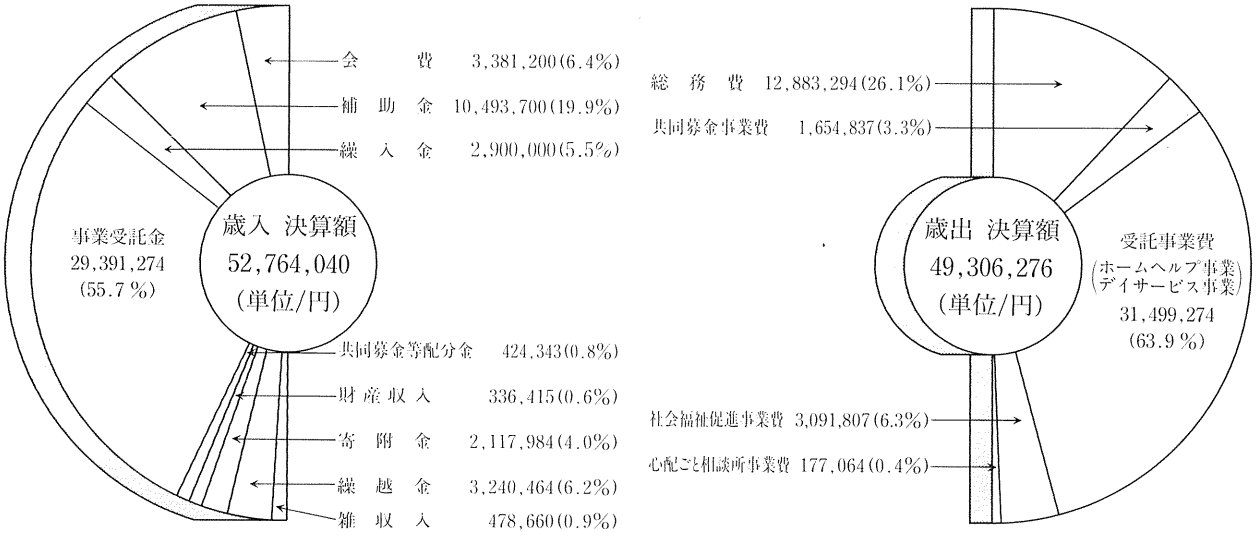
○平沢土建株式会社　金　500,000円　（現業職員健康管理機器購入費として）

社協総務・組織関係報告②

◇平成７年第２回／社協理事会・評議員会議事報告◇

去る10月30日、ふれあいの館を会場に、平成７年第２回の理事会・評議員会を開催した。

はじめに理事会において、評議員会の審議に附す報告案件・議案等について協議し、本年の「健康と福祉のつどい」における村社協会長表彰の該当者の銓衡をおこなった。つづいて評議員会では、定款変更の認可、理事・評議員の就退任、常務理事の指名、新規受託事業の運営開始等の諸報告の後、定款変更等に伴う副会長の選任、平成６年度事業報告・一般会計歳入歳出決算、平成７年度一般会計補正予算が審議に附され、それぞれ原案のとおり可決決定となった。

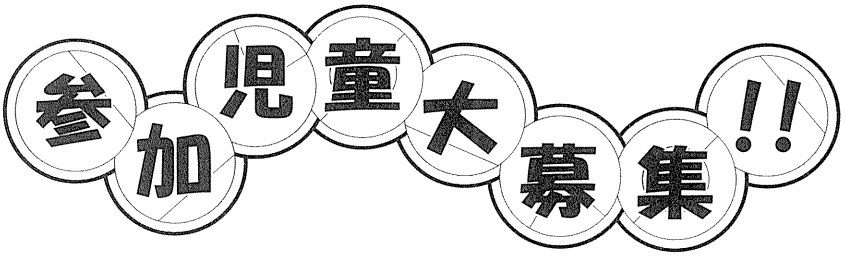


▲山形村社協／平成６年度一般会計歳入歳出決算の概要

◇インフォメーション／ふれあい児童館から◇

平成７年度後期

ふれあい児童館教室開催のご案内



中学生申込み受付期間 12/1(金)～12/20(水)

子ども囲碁・将棋教室
(盤の上の格闘技)

◆初心児童には心得を、中級児童には秘密技を伝授。
①ふれあいの館にて囲碁・将棋学習講座を開催。
②ちびっこ囲碁・将棋大会を開催。
◆開催時期／Ｈ７年12月～Ｈ８年３月の間
６回程度開催

子ども手話教室
(瞳に描く声)

◆手話学習と交流会。
①ふれあいの館にて手話学習講座を開催。
②福祉施設等との交流会を実施。
◆開催時期／Ｈ７年12月～Ｈ８年３月の間
６回程度開催

申込み先／山形村社会福祉協議会(ふれあいの館内)TEL98-3081

寄　稿

特別養護老人ホーム・ピアやまがた／生活指導員　**唐木　敏文**

ピアやまがたの基本理念は、「自由」です。

現在の日本を築き、戦中戦後の衣、食、住さえままならなかった時代、辛抱に辛抱を余儀なくされてきた今のお年寄りに、ここにきてまでの制限や細かなきまりごとは、不必要です。食べたいものを食べ、飲みたい物を飲んでもらって、「あー楽しかった」と言って家へ帰る（退所）ことを一番に考えています。

いいじゃないですか、毎日好きな事をして旨い物を食べ、たらふく飲んで行ければ（死）、人生最高だと思いませんか。

何かの縁で、ピアやまがたの家族になったわけですから、ここの利用者の１人１人が自分のじいちゃんであり、ばあちゃんです。大切な身内が喜んでくれるような施設になったらいいなーと思っています。

今までのご苦労をねぎらうために今、自分達がしなければならないことを常に考え、１つでも喜んでもらえるような「恩返し」をしたいです。

あー出会えてよかったと思っていただけるような施設になったらいいですね。次はわが身のことなんですよ、いつまでも若くはいられないんです。「さて、困った」となる前に少しだけでもじいちゃんや、ばあちゃん、自分の親のこれからを考えてみてください。

我々あととりが、安心して仕事ができる環境や、安心して利用できる福祉施設を作ることが今の課題です。

行く（死）時、「ご苦労さまでした。そして、ありがとうございました。」で人生をお送りしたいものです。

◇編　集　後　記◇

■ドップラー効果というのがある。音源が近づくと高く聞こえ、音源が遠ざかると低く聞こえる現象で、よく救急車の「ピーポーピーポー」の例なんかで説明されたりする。しかし、人間の言葉なんかも、互いの「心」が、近づきつつある時と遠ざかりつつある時とでは、何時も交わしてきた同じ言葉なのに、ちがって聞こえたりする。■各種のケアや相談の業務に携わる福祉関係者にとっても、この「心のドップラー効果」を回避して仕事に臨むことは難しい。また、効果の要因となっている「心の動き」が、いったいどちら側に起っているのか、あるいは相乗効果を生んでいるのではないかということの状況把握も、極めて困難である。■このように福祉の仕事は、福祉サービスの量的あるいは質的な把握を試みて、数値に置き換えたり、比較分析なんかをしたりする作業を、全く拒んでいるかのような測定困難な側面をも持っている。数値を追っては他の地域と比較し、先進地だの後進地だのと批評し合うことにも、空しいものを感じるようになった。■本誌に今回寄稿してくださった、ピアやまがた・生活指導員、唐木敏文さんの〝あったかい言葉〟からもうかがえるが、福祉の仕事って、互いの歩み寄り、良好な信頼関係からはじまるものなんだと今更にして思う。■今日もピアやまがたには、明るく「高い音色」が響きわたっていることだろう。

編集人／社協－K.

まほろば　（社協広報／第10号）　平成７年11月30日発行
●発行所　社会福祉法人　**山形村社会福祉協議会**（ふれあいの館内）
〒390-13　長野県東筑摩郡山形村3940番地の１　☎0263（98）3081　FAX0263（98）3016
●印刷所　日本ハイコム株式会社